

部会長就任のご挨拶

今春より第6代目の粒子・流体プロセス部会長を仰せ付かりました。

初代から先代に至るまで、歴々のご経験豊富な先生方が部会長を務めておられましたが、若輩の当方が務まるのか、一抹の不安を感じないでもありません。ただ幸いと申しますか、当方、本部会には設置当時から、ある意味、深く関与致しておりましたので、その経緯は良く理解致しているつもりであります。

熟物質流体工学分科会を横串として、粒子に関連の深い分科会(流動層分科会・粉体プロセス分科会)と流体に関連の深い分科会(ミキシング技術分科会・気泡液滴微粒子分散工学分科会)とが縦に並び、緩くバインドしつつ全体として発展させて行くとする部会の理念は、設立当時から変わっていないものと考えます。

各分科会が、それぞれユニークな活動を継承・進化させながらも、部会として存在する意義を自ら探り、これを実践に移すことができるのか、今厳しく問われているものと考えます。

思い返せば1年前には、我が国を未曾有の大震災が襲いました。本部会と関連の深いそして解決の急がれる大きな問題が、山積しているように考えます。お題目ではなく、何ができるかをまた何をすべきかを真剣に考える時でしょう。本部会として些かなりともこのことに貢献できますよう、会員各位の叡智と創意を結集して行くことに尽瘁したいと考えます。このことが取りも直さず、先に述べました問い掛けへの1つの解答になるものと信じます。



2012年4月
(部会長・上ノ山周(横浜国大教授))

2011年度 部会幹事会報告

日時:2012年3月16日 12:00-13:00
会場:工学院大学 化学工学会第77年会M会場
出席者:齋藤、上ノ山、甲斐、鷺見、太田、梶原、筒井、後藤、松隈、本間、伊藤、亀井、所、福井、吉川、仁志、島田、加納(順不同、敬称略)

議題:

1. 前回幹事会議事録を確認した。
2. 2011年度部会・分科会活動報告について、事務局より報告された。
資料の訂正[P6、熟物質工学セミナー2011(誤)→熟物質流体工学セミナー(正)]
3. 女性・若手育成プロジェクトの実施について鷺見副会長より報告された。
4. 2011年度部会賞について、本年度の受賞者が上ノ山副会長から紹介された。
資料の訂正[大阪大学名嘉山祥也(誤)→九州大学名嘉山祥也(正)]
・部会共催のシンポジウムにおいては、プレゼンテーション賞にエントリー制を導入することとした。
・部会賞の重複受賞は極力避けることとした。
5. 2011年度決算について、事務局より報告され、了承された。
・3月15日10:00から監査を受け、監事(堀尾監事、脇屋監事)により会計が適正に行われていることが認められたことが報告された。
6. 2012年度部会・分科会事業計画について事務局より説明され、了承された。
7. 2012年度予算について事務局より説明され、了承された。
8. 2012年度の幹事会役員ならびに役割分担について、上ノ山次期部会長から紹介され、了承された。
9. 教科書あるいは専門書の発行について、齋藤部会長から説明された。粒子・流体プロセス部会として、教科書あるいは専門書を発行する方向で検討してはどうかという提案があった。最終的には、幹事にメールにて賛否を伺うこととした。
10. 会員の状況について事務局より報告された。
11. 次回幹事会開催日程については、上ノ山次期部会長が調整することとした。

以上
(前事務局・加納純也)

2011年度 部会総会報告

日時:2012年3月16日 17:00~18:00
会場:工学院大学 (化学工学会 第77年会M会場)

出席者数:35名

議題:

- 2011年度部会・分科会活動報告について、事務局より報告された。資料の訂正[熱物質工学セミナー2011(誤)→熱物質流体工学セミナー2011(正)]
- 女性・若手育成プロジェクトの実施について、鷺見副部長より報告された。
- 部会賞について、上ノ山副部長から本年度の受賞者が報告された。
- 2011年度決算について、事務局から報告された。堀尾監事から監査を3月15日10:00より行い、会計が適正に行われていることを認めたことが報告された。
- 2012年度部会・分科会活動計画について事務局から説明された。
- 2012年度予算について、事務局から説明された。
- 2012年度幹事会役員ならびに役割分担について、上ノ山次期部長から提案され、了承された。
- 会員状況について、事務局から報告された。資料の訂正[2011年3月(誤)→2012年3月(正)]
- 会計での繰越金に対する上納金について化学工学会本部に確認することとした。

以上

(前事務局・加納純也)



写真1 総会風景

2012-2013年度 幹事会役員の紹介

2012年度から新体制で粒子・流体プロセス部会の運営を行うことになりました。2012-2013年度の幹事会役員と担当は下記の通りです。

		所属	分科会	担当
部会長	上ノ山 周	横浜国立大学		
副部会長	梶原 稔尚	九州大学		部会賞担当兼フロンティア賞担当
	後藤 邦彰	岡山大学	粉体プロセス代表	行事担当兼部会セミナー担当
	鷺見 泰弘	カネカ		若手・女性育成プロジェクト担当
	竹田 宏	アールフロー		広報担当/ホームページ担当
幹事	本間 俊司	埼玉大学	熱物質流体工学代表	ニューズレター担当(正)
	吉川 史郎	東京工業大学	ミキシング技術代表	部会セミナー担当(正)
	太田 光浩	徳島大学	気泡・液滴・微粒子分散工学代表	シンポジウム賞担当
	筒井 俊雄	鹿児島大学	流動層分科会代表	技術賞担当
	後藤 邦彰	岡山大学	粉体プロセス分科会代表	副部会長
	松隈 洋介	九州大学	熱物質流体工学副代表	国際会議(IWPI)担当(副)
	西岡 光利	佐竹化学機械工業	ミキシング技術副代表	若手・女性育成プロジェクト担当
	島田 直樹	住友化学	気泡・液滴・微粒子分散工学副代表	動画賞担当
	野田 玲治	群馬大学	流動層副代表	会員増強担当
	福井 国博	広島大学	粉体プロセス副代表	ニューズレター担当(副)
企画幹事	鈴木 洋	神戸大学		国際会議(IWPI)担当(正)
	伊藤 光弘	太平洋セメント		若手・女性育成プロジェクト担当
	亀井 登	ダイセル化学工業		若手・女性育成プロジェクト担当
	所 千晴	早稲田大学		若手・女性育成プロジェクト担当
監事	齋藤 文良	東北大学 名誉教授		
	脇屋 和紀	大川原製作所		
事務局	仁志 和彦	横浜国立大学		

(事務局・仁志和彦)

2011年度粒子・流体プロセス部会賞 フロンティア賞・講評と表彰式

フロンティア賞は化学工学論文集など、化学工学に関係する雑誌に掲載された論文の中で、本部会会員が著者となっている特に優秀な研究論文に対して与えられる賞です。2011年度はこれまでの審査・選考方法を踏襲し、2010年10月より2011年9月までに掲載された論文を対象として、2011年10月21日締め切りで募集を致しました。

選考は賞規程に乗っ取って行い、5分科会代表者または代理の選考委員に審査をお願いしました。2010年度から受賞論文については年会の部会セッションで受賞講演をしていただくようにしたため、そのエントリーに間に合うスケジュールで審査をする必要があり、審査委員の皆様には厳しい審査スケジュールのなかで厳正な審査をしていただきました。選考方法については、評価項目を

- (1) 着想のフロンティア性
- (2) 研究へのアプローチに対するフロンティア性
- (3) 結果に対するフロンティア性
- (4) 粒子流体プロセス分野に対するフロンティア性

の4項目とし、それぞれについて選考委員が各候補論文の評価点を付して、評価平均値の最も高い1編をフロンティア賞候補論文としました。選考委員会で異論のないことを確認した後、11月24日に部会長へ報告し、その後幹事会に諮り、異論なく決定に至りました。

受賞論文は下記のとおりです。

著者: Guoqing Guan, Chihiro Fushimi, Masanori Ishizuka, Yu Nakamura, Atsushi Tsutsumi, Satoru Matsuda, Yoshizo Suzuki, Hiroyuki Hatano, Yongpan Cheng, Eldin Wee Chuan Lim, Chi-Hwa Wang

題目: Flow behaviors in the downer of a large-scale triple-bed combined circulating fluidized bed system with high solids mass fluxes

論文名: Chemical Engineering Science, Vol.66, No.18, 4212-4220 (2011)

なお、他の賞と同様、上記論文は2012年3月開催の年会第2日夕方の部会総会で表彰式が行われ、部会のセッションの中で受賞講演がなされました。

(フロンティア賞選考委員長・梶原稔尚)



写真2 フロンティア賞受賞者 官氏

**2011年度粒子・流体プロセス部会
シンポジウム賞
(プレゼンテーション賞、奨励賞)表彰式**

シンポジウム賞・奨励賞の受賞者は、ニューズレター第6号で報告しました通り九州大学・名嘉山祥也氏で、化学工学会第77年会(工学院大学)期間中に開催された粒子・流体プロセス部会総会において表彰式が執り行われました。名嘉山氏には、賞状ならびに副賞の額縁が授与されました。受賞講演(タイトル: 複合材料の混合状態の定量化: 多階層スケールの不均一性)は、年会の粒子・流

体プロセス部会のセッションで一般講演プログラムの中で行われました。あらためてお祝いを申し上げますとともに、今後、一層の飛躍とご活躍をお祈りします。

(シンポジウム賞選考委員長・太田光浩)



写真3 シンポジウム・奨励賞受賞者 名嘉山氏

**2011年度粒子・流体プロセス部会賞
動画賞講評・表彰式**

化学工学会第43回秋季大会のシンポジウムS-3(プラズマプロセスによる化学工学の新展開)、S-17(プロセス強化実現に向けたダイナミックな反応と移動現象の応用)、S-38(先端粉体プロセス技術-粒子設計、機能化、計測評価と単位操作)、S-39(ミキシング技術の最前線)、S-40(気泡・液滴・微粒子分散工学2011)でご講演いただいた方を対象として、動画賞を募集しました。

2011年度は応募作品4点について、審査員6名で審査し、その集計結果を基に動画賞を選考いたしました。その結果、下記の作品を本年度の動画賞受賞候補として推薦し、部会にて承認され、3月開催の年会の部会総会で表彰されました。

動画賞(研究部門): 流動化ガスの切り換えによって起きる非流動化現象の可視化

鹿児島大学 大学院理工学研究科
教授 甲斐 敬美 氏

動画賞(技術部門): 流体の流れ方向の濃度ムラを効果的に均一化できる静止型ミキサの検討

旭有機材工業株式会社、
開発・技術本部 流体技術グループ
花田 敏広 氏

動画賞(教育部門): エアロゾル挙動の可視化と噴霧液滴の計測

広島大学大学院工学研究院
物質化学工学部門
助教 荻 崇 氏
(動画賞選考委員長 本間俊司)

**2011年度粒子・流体プロセス部会賞
技術賞講評・表彰式**

2011年度の技術賞には3件の推薦があり、各分科会からの審査員5名で審査を行いました。いずれの候補も高評価でしたが、実機の採用が決定されており技術的な新規性も高いとして下記の技術を本年度の技術賞候補として推薦し、部会にて承認され、3月開催の年会の部会総会で表彰されました。

技術賞：下水汚泥の加圧流動燃焼システムの実用化

代表者： 月島機械(株) 寺腰和由氏
共同研究者： 三機工業(株) 廣瀬均氏
同 (独)土木研究所 岡本誠一郎氏
同 (独)産業技術総合研究所 鈴木善三氏
(技術賞選考委員長 筒井俊雄)



写真4 動画賞(研究部門)受賞者 甲斐氏



写真5 動画賞(技術部門)受賞者 花田氏



写真7 技術賞受賞者 寺腰氏



写真6 動画賞(教育部門)受賞者 荻氏

**2011年度粒子・流体プロセス部会賞
受賞者から**

この度は、当研究室が第43回秋季大会にて発表させて頂いた「エアロゾル挙動の可視化と噴霧液滴の計測」に対して動画賞(教育部門)を頂き誠にありがとうございました。発表で紹介させて頂いた動画は、奥山喜久夫先生が1998年に制作された作品で、気相中の微粒子(0.8~2.0 μm)のブラウン運動、ブラウン凝集、乱流凝集、熱泳動、再飛散、電気泳動、帯電凝集の現象を実際に目で観察することができます。外界の影響を防ぐために、非常に微小な密閉空間で撮影を行ったり、粒子の帯電状態を制御したりするなど大変苦労して可視化を実現させたと聞いています。これら懸

命な努力が裏にあるにも関わらず、制作された動画は、実験装置図や理論などの簡単な解説が含まれていたり、たばこの煙など身近な粒子が利用されていたりするなど非常に分かりやすくまとまっています。この動画の内容は、私が学生時代に2006年にミネソタで開催された7th International Aerosol Conferenceにて“Visualization Tools for Research and Education in Aerosol Dynamics”と題し紹介させて頂いたことがあります。その時にも、数名の国外の研究者から、教育用に使用させて頂きたいとの依頼を受けたのを覚えています。私自身も大阪府立大学の赴任時代に、ケミカルエンジニアリングプラクティスという1年生向けの授業で使用させて頂きました。私自身、今は材料合成に関して応用を重視した研究に偏りがちですが、今回、この作品に触れて、勉強させて頂く過程で、昔の先生方の現象を分かりやすく理解しようと奮闘することの重要性を改めて思い知らされました。関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

(広島大院工 荻 崇)

2012 年度粒子・流体プロセス部会 シンポジウム賞の募集について

化学工学会第44回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画のシンポジウム(S-4、S-25、S-26、S-27、S-28)では、シンポジウム賞(奨励賞およびプレゼンテーション賞)を設定しています。

奨励賞の対象は、審査を希望する37歳未満の正会員の発表とします。「奨励賞」につきましては、奮ってのエントリーをお願い致します。プレゼンテーション賞の対象は、S-25～S-28では、学生会員(社会人Dr. コース在籍者を除く)の全発表としますが、辞退も受け付けます。また、S-4では、希望する学生会員(社会人Dr. コース在籍者を除く)の発表とします。詳細につきましては下記のアドレスへアクセスの上、案内をご参照下さい。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Symposium/2012/sympo-boshu44th.pdf>

(シンポジウム賞担当 太田光浩)

2012 年度粒子・流体プロセス部会技術賞の 募集について

粒子・流体プロセス部会では、毎年粒子・流体プロセスに関連した技術に関して特にすぐれた業績のあった者に技術賞を授与しております。本年度も本部会に関係する技術を対象に、会員の推薦による候補者から、厳正な審査のうえ受賞者を決定する予定です。

1. 推薦対象

粒子・流体プロセスに関連した新規性、有用性の高い技術で、実用化あるいは実用化に近い段階まで達しており、その実用化により社会的にインパクトの大きな装置、システム、プラントなどの開発に貢献した者とし、その基本原理の発明者、あるいは開発者の個人または5名以内の共同研究・開発者に授与します。ただし、受賞候補者の中には本部会会員(個人会員・法人会員・特別会員)を含む必要があります。

2. 対象とする期間

主として過去1年間に公表された技術を対象とします。ただし、長期にわたる技術開発や特別の事由がある場合はこの限りではありません。本年度の審査は秋以降を予定しておりますが、募集内容は皆様に web あるいはメール等でご連絡いたします。我が国の国際競争力の低下等が指摘されておりますが、優れた技術を顕彰し、粒子・流体プロセス分野での我が国技術のプレゼンスを高めることが重要と考えますので、自薦を含め注目する技術を是非ご推薦頂きますようお願い致します。

(技術賞担当 筒井俊雄)

2012 年度粒子・流体プロセス部会動画賞の 募集について

昨年に引き続き、動画賞の募集を行います。受賞の対象となる動画は、第44回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画のシンポジウム、S-4(プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開)、S-25(粉体プロセス技術の新展開－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで)、S-26(精密高度化・多様化するミキシング技術)、S-27(熱物質流体工学の最前線)、S-28(気泡・液滴・微粒子分散工学2012)の発表において優秀な動画をご発表いただいた方になります。

動画賞は、今年から「研究作品」、「技術作品」、「教育作品」の3部門となりました。授賞式は翌年の化学工学会第78年会時の部会総会にて行います。また併せて作品鑑賞会を実施する予定です。

ご応募いただいた方のうち、希望者には審査終了後に部会ホームページへ動画作品をリンクします。情報発信手段としても是非ご活用いただければ幸いです。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。なお、詳細につきましては部会ホームページをご覧ください。

(<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Doga/>)

2012年度粒子・流体プロセス部会 フロンティア賞の募集について

昨年までと同様、2012年度もフロンティア賞の募集を行います。化学工学論文集、*J. Chem. Eng. Japan*など化学工学に関連する国内外の学術雑誌や国際会議等での査読付きProceedingsに掲載された論文のうち、特に優秀な研究論文で、本部会会員が著者になっている論文が推薦の対象です。本ニュースレターの2011年度同賞の講評と表彰式のところで書きましたように、従来のスケジュールでは審査期間が短く、選考委員に多大なご負担をかけておりました。そこで、対象論文の掲載時期を1ヶ月早め、審査スケジュールに余裕を持たせることにしました。本年はその過渡年度になるため、現在のところ、2011年10月から2012年8月までの掲載論文を対象に、2012年9月中旬頃を募集締め切りとし、審査・選考を進める予定です。また、従来通り、受賞論文については次回年会の部会セッションで受賞講演をしていただく予定です。詳細は募集時期が近づいてから案内を致します。

過去2年間は、残念ながら必ずしも多くの件数の応募をいただくことはできませんでした。他薦の場合は、推薦論文が選考されなかった場合のことを考え、推薦が慎重になってしまうことが原因のひとつにあると思われますので、部会会員が積極的に自薦で応募していただくのがよいかもしれません。いずれにしても、皆様からの多くの応募をお願い致します。

(フロンティア賞担当 梶原稔尚)

2012年度粒子・流体プロセス部会セミナー について

粒子・流体プロセス部会セミナーは2005年当時の部会長大阪大学名誉教授平田雄志先生の御発案で開催されて以来毎年開催されてきました。第1回から2009年度の第5回までは下記のような部会内分科会横断的なテーマで1日7~9件の講演会を開催し、部会員の皆様に最新の情報収集と意見交換の場を提供してきました。

2005-2007年度

現象のシミュレーション解析と装置開発・プロセス操作への応用

2008年度

粒子・流体プロセス技術の将来展望

2009年度

新エネルギー開発と粒子・流体プロセス

2010年度以降は部会員へのサービスであることを考慮し、部会員の参加費を無料(部会員外は有料)として化学工学会年会前日に開催することとなっております。昨年は龍谷大学堀尾正毅教授、Tech.Univ.Denmark Ole Hassager教授のご講演を予定しておりましたが震災のために中止、本年は化学工学会75周年式典など行事のため開催しませんでした。来年は大阪大学で開催される化学工学会第78年会の前日、3月16日(土)に開催を予定しております。部会員の皆様多数のご参加をお待ち致しております。

(部会セミナー担当 吉川史朗)

女性・若手育成プロジェクトについて

昨年度に引き続き、2011年度は若手研究者を対象に企業で活躍する博士課程修了者と交流会を開催し、活発な意見交換が行われた。

名称:若手研究者のための交流ランチ会

形式:パネルディスカッションおよびランチ会

日程:2011年12月2日(金) 12時開場

12時30分開始(2時間程度)

場所:学士会館

趣旨:昨年度、関西で開催された「女性研究者・技術者の育成および交流を目的としたパネルディスカッションおよびランチ会」に引き続き、女性・若手育成プロジェクトの第2弾として企画した。PD、博士課程学生、将来博士課程進学を考えている学生を対象として、企業で活躍中の博士号取得技術者を講師として招くことによって、博士課程終了後のキャリアアップについて大いに夢を持ってもらうことを目的とした。

パネラー:

三菱マテリアル(株)

中央研究所反応プロセス開発センター

林 浩志 氏

新日本製鐵(株) 技術開発本部

環境・プロセス研究開発センター

三尾 浩 氏

(株)カネカ 生産技術研究所

生産技術研究グループ

平野 優 氏

参加者:24名(東京大学および早稲田大学の学生が多数参加)

実施内容: パネラー及び参加者の自己紹介に引き続き、パネラーの略歴と現在の仕事を紹介していただき、学生からの質問を受ける形式でパネルディスカッションを実施した。特に、博士課程修了者の企業での仕事や将来の進路等について、パネラーから経験と心得等を語っていただき、学生からも多数の質問もあり、有意義な意見交換ができた。

(若手・女性育成プロジェクト担当 鷲見泰弘)



写真8 交流会参加者

分科会からのお知らせ

ミキシング技術分科会

ミキシング技術分科会では会員への情報提供、意見交換を行う場として本年度も例年通り8月に夏期セミナー、関西東海地区(10月)、東日本(11月)、九州(12月)の3地区でミキシングサロンを開催する予定です。夏期セミナーは「歴史を創造する異相系ミキシング技術」というテーマで8月28日(火)、29日(水)の2日間メルパルクNAGOYA(名古屋市東区)で開催いたします。詳細はホームページ<http://www.scej.net/mixing/>をご覧ください。また、最新のミキシングに関する研究動向、会員の企業、大学、研究機関の情報を紹介する会誌、**Mixing Technology Now No.17**を9月に発行する予定です。国内外のミキシング技術の情報がコンパクトにまとまった冊子とする予定ですので、ぜひ有効に利用していただければと考えております。

(分科会代表・吉川 史郎)

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

今年度から分科会代表に就任いたしました徳島大学の太田光浩です。今年度から2年間、私を含めた4名の幹事(副代表:住友化学(株)・島田直樹氏、企画幹事:鹿児島大・水田敬先生、会計幹

事:慶應大・藤岡沙都子先生)が中心となって分科会運営を行います。分散工学分野において先導的な研究・開発の成果、情報の発信ができるように頑張る所存ですので、どうかよろしくご厚意申し上げます。

今年度の行事ですが、すでに部会員の皆様にもご案内を送付いたしました講習会「化学工学計算の並列化基礎 ~OpenMPと流体解析を中心に~」を5月18日(金)に開催しました。

化学工学会第44回秋季大会においては、シンポジウム「(S-28)気泡・液滴・微粒子分散工学2012」を企画しました。また、本シンポジウムでの展望講演では、「気泡・液滴・微粒子を含むシミュレーション」と題して住友化学(株)・島田直樹氏に最新の混相流シミュレーションに関するご講演をして頂きます。是非、本シンポジウムにご参加を頂き、活発な討論をして頂ければと存じます。

また、毎年、秋季大会期間に開催しております気液固分散工学サロンを9月19日(水)に開催する予定です。7回目となります気液固分散工学サロンでは、北見工大・三戸陽一先生に「(仮題)直接数値シミュレーション/ストカスティック・シミュレーションを用いた壁乱流内粒子分散の解析」と題して講演をして頂く予定です。ご予約に入れて頂ければと存じます。

他にも色々な行事を開催、共催して参ります。部会会員の皆様にも案内を送付させていただきますので、積極的に本分科会の活動にご参加して頂ければと存じます。情報は、HP上にて随時、更新して参りますので、下記の本分科会HPをご参照ください。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>
(分科会代表・太田光浩)

流動層分科会

第18回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB-18)が2012年11月8日(木)~9日(金)に大阪府立大学・学术交流館(〒599-8531 堺市中区学園町1-1)で行われます(反応工学部会、反応装置・プロセス分科会との共催となる予定)。次の6分野に分けて講演募集をいたします。

1. 流動化のサイエンス(流動・伝熱・気泡・CFD)
2. 機能性粒子・コーティング・造粒
3. エネルギー・リサイクル・環境浄化・バイオマス転換・CO₂排出低減
4. 反応操作(触媒反応・気固反応)
5. 物理操作(乾燥・分離・熱処理・粒子付着・粒子捕集・磨耗)
6. 医薬品・粉体プロセッシング

講演申込の締め切りは8月31日となっています。
詳しくはFB-18のHPをご覧ください。
<http://www.chemeng.osakafu-u.ac.jp/FB18/FB18.html>

また、例年実施されている粒子流体プロセス技術コースは10月10～12日に産業技術総合研究所その他で実施されます。申込期間は7月1日～9月7日となっております。詳細は下記のWebをご参照ください。

<https://sites.google.com/site/atwfbc/>
(分科会代表・筒井俊雄)

熱物質分科会

当分科会は、「熱物質流体工学セミナー」と秋季大会シンポジウムの企画を中心に活動しております。本年度は、本間俊司(代表・埼玉大)、松隈洋介(副代表・九大)、門叶秀樹(山形大)、岩田修一(名工大)、山本量一(京大)、木原伸一(広島大)、前川宗則(千代田アドバンス・ソリューションズ)の7名で運営してまいります。

恒例の「熱物質流体工学セミナー」は、秋季大会前日の9月18日(火)の午後に東北大学にて開催の予定です。北海道大学の原田周作先生から「濃度界面が引き起こす液中微粒子の集団運動」、計測エンジニアリング(株)の橋口真宜氏からは「COMSOLによる移動現象の計算(仮題)」の講演を頂く予定です。奮ってご参加ください。

秋季大会においては、シンポジウム「S-27熱物質流体工学の最前線」を企画しております。19件の一般講演と1件の招待講演を予定しています。招待講演は、千代田アドバンス・ソリューションズの田口智将氏より「反応器開発への反応・流動解析の適用事例の紹介」と題して講演を頂きます。なお、熱工学部会および反応工学部会との共催で「S-4プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開」も企画しております。こちらもご参加ください。

この他、International Workshop on Process Intensification (IWPI) 2012が11月8～9日にソウル Korea Universityにて開催されます。本ワークショップは2006年に神戸大学で初めて行われ、その後東工大、九大と2年おきに開催されてきました。今回は初めて海外での開催となります。熱物質流体工学分科会のひとつの柱として提案しておりますプロセス強化に関する問題を議論いたします。詳細につきましては下記アドレスへアクセスし、案内をご参照下さい。粒子・流体プロセス部会の皆様には、IWPI2012への積極的な参加をよろしくお

願い致します。<http://iwpi.org/>
(分科会代表・本間 俊司)

粉体プロセス分科会

当分科会は、秋季大会のシンポジウムを主たる行事として運営しております。平成23年度は、名古屋工業大学において開催された第43回秋季大会にて、粒子状物質の設計や生成、機能化から、その計測・特性評価、粉体操作・プロセスの基礎技術や実プロセスでの検討事例まで、幅広く最新の研究成果を募り、その報告と討論を行うことを目的として、「先端粉体プロセス技術－粒子設計、機能化、計測評価と単位操作」と題したシンポジウムを開催いたしました。このシンポジウムでは40件の研究発表のお申込をいただき、秋季大会の初日と2日目の2日間に渡り、活発な討論が行われました。

今年も同様に、幅広く最新の研究成果を募り、その報告と討論を行うことを目的として、秋季大会におきまして「粉体プロセス技術の新展開－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで」と題したシンポジウムを開催いたします。粉体だけでなく、あらゆる状態の粒子状物質に関する研究が報告されますので、ぜひとも会場にお越しいただきたいと思っております。

また、ニューズレター6号で詳しく紹介いたしましたように、一昨年度より、分科会のオリジナル行事として、新たに「先端微粒子ハンドリング講演会」を立ち上げ、平成23年度は、その第2回講演会を3月に岡山大学にて、第3回講演会を9月に京都大学にて、第4回講演会を10月に大阪にて開催いたしました。平成24年度から分科会運営体制も新しくなり、この講演会に以外にも、新しい企画を考えていきたいと思っております。開催は不定期にはなりますが、開催案内ができましたらアナウンスさせていただきますので、ご興味のある会だけでもかまいませんので、ご参加いただけますようお願いいたします。

(分科会代表・後藤 邦彰)

部会への入会方法

化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)で粒子・流体プロセス部会へ入会を希望される方は、化学工学会ホームページの「入会のご案内／部会入会の申込み」

(http://www.scej.org/jp_html/info/info.htm)より、お申し込み下さい。

化学工学会の法人会員、化学工学会会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス

部会の賛助会員、特別個人会員になることを希望される方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

また、現在、分科会に所属されてない部会員で、入会希望の分科会がございましたら、部会事務局で受け付けますので、ご連絡下さい。

さらに、部会会員で配信メールが届かない方、あるいはメールアドレスを変更された方も事務局までお知らせください。

Phone/Fax:045-339-3988 (仁志 和彦)

E-mail :nishi@ynu.ac.jp

(事務局・仁志和彦)

部会ニュースレター編集後記

ようやく部会ニュースレター7号をお届けすることができほっとしております。新しい年度を迎え、部会長の交代や幹事の入れ替わりがありました。部会賞、各分科会活動、女性若手の育成など粒子流体プロセス部会の活発な活動が伝われば編集担当としてこの上ない喜びです。今後とも皆様のご協力およびご寄稿よろしく願いいたします。

(ニュースレター編集担当・福井国博・本間俊司)